



高校生活を充実させ、進路実現につなげよう!!

就職・進学に際して、“なぜこの会社を受けるのか”“なぜこの学校を受験するのか”履歴書・志望理由書にその理由を書かなければなりません。また、自分の進路を考える際に、明確な理由付けがあれば、目標が高くても達成するために頑張ることができます。そのためにも1・2年生の時から学校生活を充実させることが必要となってきます。

学校生活には、普段の授業、定期考査、資格取得、部活動、委員会活動、生徒会活動、ボランティア活動等があります。様々な活動に真摯に向き合うことで、自分の得意・不得意、興味や関心の持てるものがわかり、自己理解も深まります。さらに、ボランティア活動や総合的な探究の時間での課題探究活動等に真剣に取り組むことで、将来の職業についての考えも深まっています。

このように学校生活を充実させることが、3年次の「履歴書」「志望理由書」や「活動報告書」などの内容を深めることになり、進路実現につながります。また、総合型選抜や学校推薦型選抜で重視される「高校時代の取り組み」に関しても、英語検定、漢字検定や数学検定などの各種検定資格を所持していると「継続的な勉強や努力ができる生徒」であるという評価を得られる可能性につながります。

志望理由書について

総合型選抜では一次選考として書類審査を課す大学、学校推薦型選抜においても出願書類に志望理由書を課す大学が多くなっているのが現状です。このため志望理由書は、一次選考や面接試験を突破するための重要な書類であるということを改めて認識しましょう。

○ 志望理由書の「作法・書き方」について

1. 志望理由書は、出願先の相手を読むものと心得ること。

相手に気持ちよく読んでもらう書類であるという意識は、評価してもらうための最低条件だということは理解しましょう。

原稿用紙の使い方のルールを守らない、誤字・脱字が多い、漢字が書けていないなど、とても受験レベルの高校生とは思えない語句や文が混在しているようでは、ダメです。

小論文の試験のように制限時間内に書かなければならない文章ではありません。ですから、志望理由書は、文字を丁寧に書き、出願先の相手を読みやすいものに仕上げてください。

2. 志望理由書は、抽象的な内容や表現ではなく、具体性を持たせること。

志望理由書は、抽象的な内容や表現にならないようにしましょう。例えば、「国内のみならず海外でも活躍できる…」や「触れ合ったすべての人々を笑顔に…」など一見すると立派なのですが、抽象的な表現のため、内容が全く伝わらない文章を書く生徒がいます。

また、高校生活の実体験を伝えたいのはわかるのですが、「文化祭で協力して頑張りました。」「部活動で協力しあう大切さを学びました。」「ボランティア活動に励みました。」など、内容に具体性を欠くため、結局何をしたのかわからないものがあります。

読み手が具体的にイメージできない内容では、何を伝えたいのかわからず、評価されにくいということをはっきりと理解する必要があります。

大学受験で志望理由書・小論文・面接ともに共通して言えることは、「いかに相手に納得してもらうか」ということになります。

高校生活を通して、学んだり、考えたりした**問題発見能力**（現代社会の様々な出来事からその時代における問題を発見できる能力）、**課題解決能力**（課題に対する具体的な解決方法を提示する能力）、**社会貢献能力**（社会に存在する問題を解決し、社会に貢献できる能力）を志望先の教育方針やアドミッションポリシーと関連付けて志望理由書に書いたり、面接で具体的に話せるようになると良いでしょう。

英語の4技能について

大学入試改革で重視されるようになった英語の4技能ですが、ここ数年で多くの大学が独自試験に英語の民間検定の4技能の成績を評価する「英語外部試験利用入試」を導入するなどスピーキングやライティングも含めた英語教育の重要性が高まっています。また、大学によっては、英語の技能資格を出願資格条件としています。福島大学の出願資格条件は、下記の通りです。

福島大学 農学群食農学類 総合型選抜 実用英語技能検定 準2級以上 または
GTEC スコア690点以上
福島大学 人文社会学群経営経済学類 A推薦 実用英語技能検定 CSE スコア1850点以上

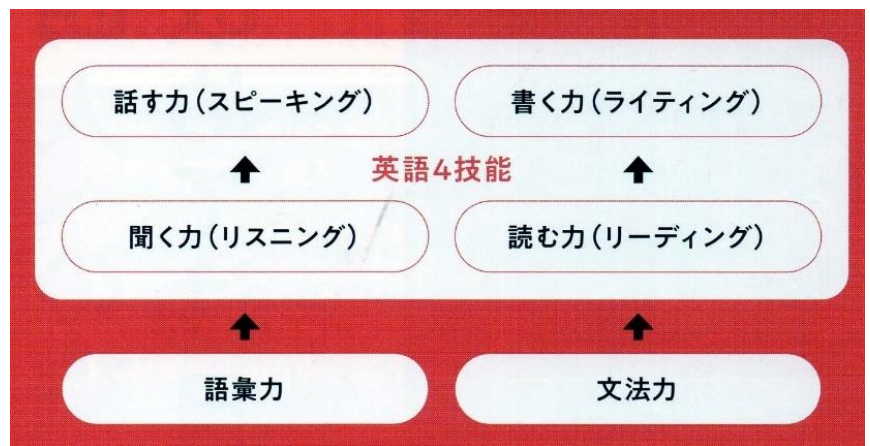
○ 英語民間検定は、高校在学中に取得すると大学受験が有利になる。

私立大学を中心に、従来の「読む」「聞く」だけではない、「書く」「話す」を含めた英語4技能の力を持つ受験生を評価するため、数年前から「英語外部試験利用入試」が導入されています。この入試では、受験生が規定の英語試験のスコアを持っていると、大学独自の英語科目が免除になったり、スコアに応じて得点化されるなど、プラスになります。

○ 大学入試における英語の重要性

大学入試においては文系・理系のどちらを目指している場合でも英語は必須科目であり、大学入試の合否を左右する科目です。今後はますます入試形式が多様化していくことが予想され、英検などの資格を持っていれば、合格の機会が広がることは間違いありません。

英語を好きになるきっかけを見つけて試験対策を行い、民間の英語検定などに挑戦して希望の進路を実現するための「武器」を増やしていきましょう。



『SINRO!』No.6 株式会社 進路企画 より転載

○ 英語4技能を伸ばすためには

「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能は、同時に習得できるかというとそうではありません。まず、書いてあることを読み、英語を聞いて理解できることが前提で、そのうえで初めて「書く」「話す」という段階に移行できます。そして、リーディング、リスニングのためには、語彙力、文法力が欠かせません。

このため、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能に加え、その土台となる「語彙力」「文法力」の力も必要となってきます。

英語に苦手意識を持つ生徒も多いようです。自分の興味のあること、好きなことから単語や熟語を覚える、という方法も苦手意識を克服する一つの方法です。例えば、音楽が好きなら洋楽を聞く、映画やドラマが好きなら洋画や海外ドラマを見る、といったように、「これなら興味を持って学べる」という教材を繰り返し聞く方法もあります。

また、日常のなかにも英単語を覚える機会は無数にあります。例えば、町の案内板やパンフレットには、日本語と英語が表記されています。このように身の周りのものに興味を持ち、「どうしてこのような言い回しをするのか」「こういう表現はできないだろうか」などと疑問を持つことが、英語の実力を向上させるきっかけとなります。

リーディング、リスニングの基礎を固めた生徒は、ライティング、スピーキングの時間を多くすることで、「表現力」を鍛えることができます。例えば、ひとつの日本語表現を複数の英語表現で考えてみることも表現力を高める方法の一つです。表現のバリエーションを増やすことが、前置詞などの文法の復習にもなりますし、論理性を鍛えることもできます。